

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成26年12月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&li_gyosyoQd=2170500389-00&PrefQd=21&VersionQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性や能力を生かして四季折々の作業療法(手先を使って、ちぎり絵や、折り紙等)を行い体力作りにはホームの犬と散歩を等をして近隣とのふれあいを大切にしています。24時間医師が在中しており、安心した生活が送れます。又職員は、常に利用者との距離感をちぎめ、寄り添う介護を目標に入居者の意志を尊重し、明るく、楽しい雰囲気作りに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自宅にいるような環境で、その人らしく生きる支援を皆で考えながら、ケアをしている。共同作業の壁飾り作りや小型犬の世話・食事の後片付けなど、その人が出来る力を見つけ活かす事で利用者の自立心や自信に繋げている。又地域や家族との結びつきを重視し、関係者と連携や支援を受けながら地域住民として、家族としての関係維持に努めている。
隣接病院医師・看護師・職員の連携が密で24時間医療受診が可能であり、微熱などの軽い症状から重篤まで適切な受診や指導が可能で利用者や家族の安心の拠り所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し近隣との交流を深めるを理念に挨拶や会話を通じて親近感をもって頂けるよう実践している	地域との結びつきを重視する理念のもとに、散歩時に地域の人々と挨拶や会話をしている。誘いを受け地域住民の家の花見に出掛けることもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会などに加入して、祭りや行事に参加その他地域の溝掃除などに積極的に参加して交流を深めている	祭りには事業所の駐車場が神輿の集合場所になり、利用者が出迎えをしている。花や野菜をもらうこともある。また、毎月近隣ケアの集いを事業所で開き地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて自治会及び民生委員さんを通じて近隣ケアの集いがある際に認知症への理解を求めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して、利用者へのあり方及び取組状況を報告して意見をいただきサービス向上へと生かしています。	評価やサービスの利用状況を報告している。地域との交流が少ないとの意見があり、民生委員の世話で保育園の発表会に参加をして園児と交流があり、利用者の楽しみとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの入居の依頼の問い合わせや、社協の方たちとの連絡を密にし、色々相談や要望をしたり指導を受けています。	入居の問い合わせや利用者の抱える問題等について常に連絡を取り相談や助言を得ている。また法改正による防火設備の設置等難解な事柄にも詳細に指導・助言を受けるなど連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が周知徹底し、取り組んでいる。利用者に危険が伴う場合のみ家族に了承してもらい短時間のみ行う場合があるが、それ以外は、見守りにて介護し、玄関の施錠は利用者の安全を守るためやむを得ず施錠するときもある。	職員は拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアを実践している。利用者の思いを聞き、見守りや散歩を心がけ言葉による拘束にも注意している。敷地外への通用口の施錠はあるが、玄関の施錠はなく隣接病院や庭への外出は自由になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待がされていないか、職員間で報告を密にして見過ごされことなく職員で防止徹底を図っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、市関係者と相談をしながら対処しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学に来た時に、一通りの説明をしてそれで納得した上で入所の申し込みをして頂きます改正の場合は文書にて送付させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置して、気軽に意見や要望を伝えることが出来る関係作りに努めています又、行政等を利用して苦情を表せるようにしています。	「ふれあい箱」を設置しているが投書はない。面会時に、家族に希望や苦情などを尋ねているが「全面的に任せてある」などと言われ特に意見は出ていない。	家族から意見が出ていないことを踏まえ、職員や事業者側から意見や要望を出しやすい雰囲気や工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングを開き意見を聞いたり年2回の職員の研修を兼ねていろいろな意見交換をしています。	毎日のミーティング時に職員からの気づきを聞いている。食事会で職員の意見や要望を聞く場を設け、職員の言い易い環境を作っている。職員の意見により利用者に対することば使いに対して注意をするため、気付いた内容を投書するための箱を設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の研修及び懇親会を兼ねて情報交換やコミュニケーションを図り職員の考えを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の機会を作って行っている。外部研修の案内も進めており、資格取得に向けた支援がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを訪問するなどして、交流を深め、一部の職員に限らず、サービスの質の向上のためにも同業者との交流は努めていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス担当者会議を開き、本人・家族・ケアマネ・管理者・計画作成担当者等で本人・家族の要望を確認しながら、不安を最小限にとどめる努力をしていきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学に来た時に本人・家族の要望を聞き入れた上で、サービスを導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から情報収集したて、今何が必要としているかを見極めて他のサービスが必要な場合は協力を支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを大切に、駄目な事は注意して、声を掛け合い、助け合いながら一緒に日常生活を応援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の要望に耳を傾けて相談しながら、お互いが安心して生活ができるよう、そして、頻繁に家族の方が面会に来ていただけるような関係を築いていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問・面会に気楽に来ていただける雰囲気作りをして、一緒にお茶して頂き、時には喫茶店や買い物など安心して外出をしていただいています。	友人等の来訪時には次回の訪問をお願いしている。馴染みの人や場所を聞き、車で出掛ける時に寄り道をするようにしている。時々、馴染みの喫茶店に出掛けたり、利用者の自宅近辺の景色を見てくることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず、孤立してしまう方もいますが、行事や、レク及び作業療法等を通じて利用者同士が関わり合いをもって孤立しない雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所したかたの独居の方たちには、相談に乗ったり、また家族の方からは、お野菜を頂いたりして交流を深めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にどんな暮らしがしたいか、又何か意向があれば聞いてそれをケアプランに反映させています	希望や意向を充分聞いている。発言出来ない利用者には居室での会話の時間を取り落着いた環境の中で意向の把握をしている。表情やしぐさから思いを汲み取り個々に合った支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議等で本人・家族・ケアマネさん等から今までの経過を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時にセンター方式を(できること・できないこと)利用して、その方の有する力を把握していきたい		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族との話し合いを持ち、どんな生活をしたいか、またどんな生活をしてもらいたいかな等を話し合い介護計画に反映していきたい	家族・管理者・看護師・ケアマネ・医師と話し合い介護計画を立てている。状態が変化した時や問題が起きた時は、モニタリングを参考にしながら担当者会議を開き意見を取り入れ、その都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員が気づきの点があった場合は、介護記録等を利用して、記入して頂き、それを朝のミーティング等で話し合い問題点を職員間で共有し介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の現状により、本人・家族の要望に応じ理美容院の利用者近隣ケアの参加・ボランティア等の協力を得て支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花や野菜等を植えて土いじりなどを楽しみながら収穫を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療設備が隣接しているため、家族も本人も安心して何か異変があった場合は、早急に対応ができるようになっています。	専門医の受診の際は、家族より受診結果の報告がある。毎日看護師が利用者の状況を医師に報告して適切な医療が受診ができるようにしている。本人に不調がある時、自ら隣接の病院に行き受診を受けている事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師さんとの連携も密にして、体調の変化に気づいた時は、看護師に連絡をして適切な看護・受診が出来るよう心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療が出来、何時でも入所ができるように部屋の確保はしておき、医療機関のケースワーカーさんとの連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期の在り方は、入所時に家族と話し合い事業所で出来ることを説明して方針をたてている。	入所時に利用者・家族に重度化した場合できることを説明し了解を得ている。常に医療が必要と医師が判断した場合は隣接病院に転院するが、看取りの希望には家族に説明し相談しながら医師・看護師・介護者と連携を取り看取りを行っている。家族介護の宿泊も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に事故発生時に備えた応急処置の仕方及び訓練を定期的に指導をしていただき介護職員全員に周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い避難経路の確保をして災害時の体制を職員全員で把握している。運営会議でも議題にして話し合いをしている。	職員や利用者、地域の人が参加し、笛を使った利用者への呼びかけ、ベランダへの誘導などの避難訓練をしているが、夜間を想定した避難訓練の実施がない。また、災害に備え、水や薬品は確保しているが、非常用の食品や備品の備蓄がない。	夜間を想定した避難訓練の実施、災害に備えた食料品、備品などの準備をされるよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室のためある程度のプライバシーは保たれているが、必ず部屋に入るときは、ノックをして、声掛けをしてから入る、その人の人格及びプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けています。	自己選択を大切にして、利用者が出来る事は時間を要しても見守り、出来る事への自信に繋げている。入浴時の着替えの衣類は見えないように袋に入れている。トイレや入浴時の声掛け等プライバシーに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、介護職員がささとしてしまうのではなく、本人の意志及び自己決定ができる雰囲気を作り、自分で選んでもらえる環境を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し見守りながら支援していく。食事の時間も焦らず、ゆっくりとて頂き、入浴も本人の体調に合わせて入って頂くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1か月に1回ぐらいのペースで、美容院に歩ける人は、散歩がてら、行ってもらい、歩行困難な方のために、出張してもらい、身だしなみに気をつけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好物や食べたい物を尋ねて出来る限りそれに応えられるよう努力している。季節の野菜などで見た目にも楽しんでいただけるようにしています。後かたづけは、当番制にしています。	味や硬さを利用者の状態に合わせ、美味しく食事の出来る様にしている。また、むせや誤嚥の無い様に果汁はゼリーにするなど工夫している。職員は、食卓を囲み利用者と会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者さんの疾病等により、食事制限、水分制限等がある場合は、主治医に従って行っています。そのほかの方については、脱水にならないよう気を配りながら介護職員全員に周知徹底しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをして、出来る方は自分で歯磨きをしていただき、出来ない方は、介助をし、入れ歯の人は、はずして洗い、週1回は、消毒をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して声掛けをし、誘導しています。日中のおむつ外しに取り組んでいます。	職員の見やすい場所にチェック表を置き、排泄パターンを把握し、タイミングを逃さぬよう日中はトイレ誘導をしている。入居時はオムツ使用の利用者の中にはトイレ誘導により布パンツ使用になった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて食物繊維を多く摂取し、乳製品等を取りいれたり水分補給をこまめにとり運動不足にならないように日課に体操を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入浴する順番を決めている体調や気分のすぐれない方は、後日体調のいい日に入って頂くようにしています。介助の必要な方は、プライバシーに配慮をしながら安心して入浴して頂いてます	利用者の希望を聞き、背中を流したり洗髪介助をしている。自分で入浴する利用者には、プライバシーに配慮をしながら声掛けをしている。長湯の方は時間を決めて声掛け確認をし、気分良く入浴が出来る様にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を各部屋に設置しており、室温・風向き等の環境を整えています。又天気の良い日は布団干して、気持ちよく睡眠がとれるよう気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い、用法・用量等は介護職員全員周知徹底して行っています。又体調の変化に気づいた時は、すぐ医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事や・個人の趣味(ぬり絵・はり絵カレンダー作り)等をして頂いています。洗濯の好きな人には、干し物やたたみ物をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りや、花見に近くの公園に出かけたり又家族に買い物などに連れて行って頂いたり、近くの喫茶店にみなさんでお茶をしに行っています。	散歩は交通量や危険度を考慮して決めたコースで外出している。歩行できる利用者は、職員と往復の道順を確認をして近くのコンビニや公園に出かけている。家族の協力を得て食事や買い物に出掛けたり、併設デイサービスの車を利用してドライブにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援しています。自己管理出来る方は、自分で財布をもって管理をして、出来ない方は事務所又は生活支援の方が管理をして、本人の意向に沿って、欲しいものや必要なものはその都度、聞き買い物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホール内に、公衆電話を設置してあるので自由に使用できるようにしています。家族に電話をしたり手紙を書いたりして連絡を取り合っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花を生けホールには共同制作の作品を飾り、季節感が感じられる。台所が身近にあり料理の香りや音も楽しみであり室内犬とのふれあひも癒しとなっている。	玄関前の通路には、プランターや植木鉢に花が植えられ、ホールには職員と全入所者と共同で作成した折り紙・切り絵のカレンダーや季節の壁掛けを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で他の人との会話を楽しんだり天気のいい日は、庭にでて、日向ぼっこをしながら気の合った者同士会話を楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や、身の回り品をもってきていただき、好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅での生活と距離感がないように工夫しています。	亡き家族の写真に花を供え経文を読んだり、趣味の作品作りや花々を育てている利用者がいる。テレビやラジオを持ち込み家族写真を飾るなどそれぞれの思いに沿った調度で自宅生活の延長の暮らしができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中ご自分の居室の掃除・洗濯・花壇の手入れ等自分で出来ることはして頂いています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成26年12月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170500389-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し近隣との交流を深めるを理念に挨拶や会話を通じて親近感をもって頂けるよう実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会などに加入して、祭りや行事に参加 その他地域の溝掃除などに積極的に参加して交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて自治会及び民生委員さんを通じて近隣ケアの集いがある際に認知症への理解を求めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して、利用者へのあり方及び取組状況を報告して意見をいただきサービス向上へと生かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの入居の依頼の問い合わせや、社協の方たちとの連絡を密にし、色々相談や要望をしたり指導を受けています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が周知徹底し、取り組んでいる。利用者に危険が伴う場合のみ家族に了承してもらい短時間のみ行う場合があるが、それ以外は、見守りにて介護し、玄関の施錠は利用者の安全を守るためやむを得ず施錠するときもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待がされていないか、職員間で報告を密にして見過ごされことなく職員で防止徹底を図っていく。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、市関係者と相談をしながら対処しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学に来た時に、一通りの説明をしてそれで納得した上で入所の申し込みをして頂きます改正の場合は文書にて送付させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置して、気軽に意見や要望を伝えることが出来る関係作りに努めています又、行政均等を利用して苦情を表せるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングを開き意見を聞いたり年2回の職員の研修を兼ねていろいろな意見交換をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の研修及び懇親会を兼ねて情報交換やコミュニケーションを図り職員の考えを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の機会を作って行っている。外部研修の案内も進めており、資格取得に向けた支援がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを訪問するなどして、交流を深め、一部の職員に限らず、サービスの質の向上のためにも同業者との交流は努めていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス担当者会議を開き、本人・家族・ケアマネ・管理者・計画作成担当者等で本人・家族の要望を確認しながら、不安を最小限にとどめる努力をしていきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学に来た時に本人・家族の要望を聞き入れた上で、サービスを導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から情報収集したて、今何が必要としているかを見極めて他のサービスが必要な場合は協力を支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを大切に、駄目な事は注意して、声を掛け合い、助け合いながら一緒に日常生活を応援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の要望に耳を傾けて相談しながら、お互いが安心して生活ができるよう、そして、頻繁に家族の方が面会に来ていただけるような関係を築いていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問・面会に気楽に来ていただける雰囲気作りをして、一緒にお茶して頂き、時には喫茶店や買い物など安心して外出をしていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず、孤立してしまう方もいますが、行事や、レク及び作業療法等を通じて利用者同士が関わり合いをもって孤立しない雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所したかたの独居の方たちには、相談に乗ったり、また家族の方からは、お野菜を頂いたりして交流を深めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にどんな暮らしがしたいか、又何か意向があれば聞いてそれをケアプランに反映させています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議等で本人・家族・ケアマネさん等から今までの経過を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時にセンター方式を(できること・できないこと)利用して、その方の有する力を把握していきたい		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族との話し合いを持ち、どんな生活をしたいか、またどんな生活をしてもらいたいかな等を話し合い介護計画に反映していきたい		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員が気づきの点があった場合は、介護記録等を利用して、記入して頂き、それを朝のミーティング等で話し合い問題点を職員間で共有し介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の現状により、本人・家族の要望に応じ理美容院の利用者近隣ケアの参加・ボランティア等の協力を得て支援しています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花や野菜等を植えて土いじりなどを楽しみながら収穫を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療設備が隣接しているため、家族も本人も安心して何か異変があった場合は、早急に対応ができるようになっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師さんとの連携も密にして、体調の変化に気づいた時は、看護師に連絡をして適切な看護・受診が出来るよう心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療が出来、何時でも入所ができるように部屋の確保はしておき、医療機関のケースワーカーさんとの連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期の在り方は、入所時に家族と話し合い事業所で出来ることを説明して方針をたてている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に事故発生時に備えた応急処置の仕方及び訓練を定期的に指導をしていただき介護職員全員に周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い避難経路の確保をして災害時の体制を職員全員で把握している。運営会議でも議題にして話し合いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室のためある程度のプライバシーは保たれているが、必ず部屋に入るときは、ノックをして、声掛けをしてから入る、その人の人格及びプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、介護職員がささとしてしまうのではなく、本人の意志及び自己決定ができる雰囲気を作り、自分で選んでもらえる環境を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し見守りながら支援していく。食事の時間も焦らず、ゆっくりとて頂き、入浴も本人の体調に合わせて入って頂くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1か月に1回ぐらいのペースで、美容院に歩ける人は、散歩がてら、行ってもらい、歩行困難な方のために、出張してもらい、身だしなみに気をつけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好物や食べたい物を尋ねて出来る限りそれに応えられるよう努力している。季節の野菜などで見た目にも楽しんでいただけるようにしています。後かたづけは、当番制にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者さんの疾病等により、食事制限、水分制限等がある場合は、主治医に従って行っています。そのほかの方については、脱水にならないよう気を配りながら介護職員全員に周知徹底しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをして、出来る方は自分で歯磨きをしていただき、出来ない方は、介助をし、入れ歯の人は、はずして洗い、週1回は、消毒をしている。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して声掛けをし、誘導しています。日中のおむつ外しに取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて食物繊維を多く摂取し、乳製品等を取りいれたり水分補給をこまめにとり運動不足にならないように日課に体操を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入浴する順番を決めている体調や気分のすぐれない方は、後日体調のいい日に入ってもらくようにしています。介助の必要な方は、プライバシーに配慮をしながら安心して入浴して頂いてます		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を各部屋に設置しており、室温・風向き等の環境を整えています。又天気の良い日は布団干して、気持ちよく睡眠がとれるよう気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い、用法・用量等は介護職員全員周知徹底して行っています。又体調の変化に気づいた時は、すぐ医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事や・個人の趣味(ぬり絵・はり絵カレンダー作り)等をして頂いています。洗濯の好きな人には、干し物やたたみ物をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りや、花見に近くの公園に出かけたり又家族に買い物などに連れて行って頂いたり、近くの喫茶店にみなさんでお茶をしに行っています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援しています。自己管理出来る方は、自分で財布をもって管理をして、出来ない方は事務所又は生活支援の方が管理をして、本人の意向に沿って、欲しいものや必要なものはその都度、聞き買い物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホール内に、公衆電話を設置してあるので自由に使用できるようにしています。家族に電話をしたり手紙を書いたりして連絡を取り合っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花を生けホールには共同制作の作品を飾り、季節感が感じられる。台所が身近にあり料理の香りや音も楽しみであり室内犬とのふれあいも癒しとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で他の人との会話を楽しんだり天気のいい日は、庭にでて、日向ぼっこをしながら気の合った者同士会話を楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や、身の回り品をもってきていただき、好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅での生活と距離感がないように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中ご自分の居室の掃除・洗濯・花壇の手入れ等自分で出来ることはして頂いています。		